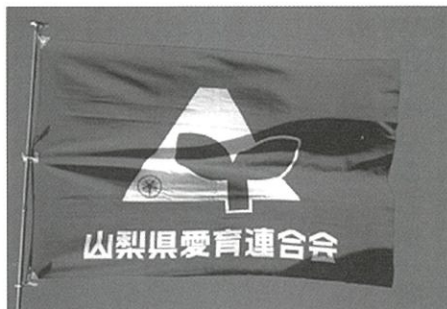




愛育のこころ

すいやかな母親からすいやかな子が生まれます。
よい環境がその子をつくらます。
生きることの価値は
何かかできる よろこびを味わうことです。

(書：故 望月弘子先生)

「故 望月弘子県愛連参与採録」を一部抜粋



愛育だより



編集発行
山梨県愛育連合会
甲府市丸の内1-6-1
山梨県子育て政策課内
TEL 055-223-1425

会長に就任致しました石原です。まずは連合会へのご支援、ご協力を衷心より感謝申し上げます。

こども家庭庁が発足し子どもを取り巻く環境が大きく変化する現在、愛育の心を根幹とする活動が、あらゆるシーンで必要とされる現状です。



いあいさつ

山梨県愛育連合会会長 石原 まゆみ

今年度、恩賜財団母子愛育会より「模範愛育班の指定」を受け、全国にあまり類を見ない本県の組織体制を活かし、活動の両輪となる子育て政策課及び五保健所管内を通じて、新たな試みである研修や交流会等を実施することが出来ました。懸念すべき地域のつながりの希薄さや、担い手不足等の課題については、各々の地域性や実情を考慮し、皆で共有を図り、創意工夫を考えております。

結びに、山梨県愛育連合

スローガン

育てよう地域のかで すこやかな子らに
声かけ、見守りて

母と子・すべての人に 愛育のこころを

県愛育連合会が長年にわたり母子の健康づくりや愛育思想の普及・啓発に御尽力いただいていることに心から感謝申し上げます。

今年度、恩賜財団母子愛育会より「模範愛育班の指定」をお受けになられたこ

とは、これまでの皆様の地域に根ざした活動が高く評価されたものとして深く感銘を受けました。

そして、次年度は六十周年を迎えられることを謹んでお喜び申し上げます。

今後とも、本県の母子保健活動の推進にあたり御協力を賜り、広く県内外に向け活動の啓発に努めて頂くことで、母と子、そして家族の健康に寄与されることを御期待申し上げます。



山梨県子育て政策課 課長

篠原 孝男

愛育会活動に期待する

会は、この尊い活動を次世代に繋ぐことを念頭に、地域すべての人々に愛育のこ

ころを持って寄り添い、地域づくりに貢献してまいります。



今年度、子どもから高齢者まですべての方がいつまでも健康で富士川地区に住み続けられることを目指して、富士川地区愛育会を設立しました。保健師の協力のもと、新たに愛育役員となる住民とともに住民説明会や愛育会活動の周知など設立に向けての準備を

仲間になりました

甲府市管内富士川地区愛育会

中村 明彦

つなげよう
愛育の
いっしょ
ちから

行いました。会を設立することは大変でしたが、楽しさや、やり甲斐を感じることでできました。十月には高齢者を対象に機能訓練事業「ふれあいくらぶ」を初めて開催しました。参加された方から、感謝と継続を望む声があり、充実した活動ができました。今後も地域住民との絆を大切にしながら、地区の健康づくり活動に貢献していきたいと考えています。

復活しました

甲府市管内相川地区愛育会

芦澤美也子

相川地区愛育会は昭和五十六年に発足後、平成二十八年度より休会となりました。活動の一部を他組織へ引継ぎましたが、少子高齢化社会が進み、愛育会の必要性を強く感じ、再結成



を目指しました。一年半に渡り、保健師の協力を受け、回覧で賛同者を募り、令和六年四月より十名で再結成しました。他地区の活動を見学することから始め、八月に地区の夏祭りで地域にデビューしました。私達は動き始めたばかりですが、会員が無理なく、自らが楽しく、自分たちの地域の将来を明るくものに描ける、そんな活動を行い、次世代に繋げていきたいです。

次世代に繋ぐために

中北管内韮崎市愛育会

山本 幸子

三十年前に、韮崎市愛育会は独立した組織として再

スタートしました。十一班に分かれて活動してきましたが、コロナ禍では班活動ができず、活動が縮小していました。

人口減少、高齢化等であり手がいない地域も出てきたため、昨年度末に、町ごとの活動や班員数を思い切って縮小し、活動を市に集約することにしました。

そして、赤ちゃんが集まる場所に班員が出向こう！と活動を変え、保健福祉センターで実施している七か月児対象の「すくすく教室」に参加させてもらうことにしました。短時間ではありますが、子どもたちの名前やお住いの地域を伺い、だっ



こさせてもらいながら、「愛育って存じますか？」と話をしました。小さな啓蒙活動です。

『韮崎市子育て支援センター』のイベントに年二回参加協力しました。班員からは「地域では子どもにはなかなか会えないが、イベントに参加して、子どもからエネルギーをもらった。楽しかった。」と感想が聞かれました。

今年度は組織改革後、新たなスタートになりました。手探りの状態ではありましたが、三十年前に再スタートした愛育会を、未来へと繋げるために、試行錯誤しながら進んでいきたいです。



いちのみや絆まつり

峡東管内一宮愛育班

深山 礼



令和六年十一月九日、さわやかな秋晴れのもと、『第八回いちのみや絆まつり』が開催されました。コロナ禍で開催の制限が続いていましたが、昨年より再開され、二回目となる今回の絆まつりに、大勢の方々が集い賑わいました。一宮愛育班は、愛育班とは何か、活動内容を紹介するために、年二回発行する愛育だよりや活動報告を掲示しました。参加者には熱心に目を向けていただきました。また、パンチボールに「愛育班の紹介」を付け、子どもを対象に配布したところ、列をなして受け取ってもらったほどの人気で、

子どもたちの笑顔での「ありがとう」の言葉にほっこりしました。笛吹市愛育連合会では、「受動喫煙の防止」をテーマに肺の模型を展示し、受動喫煙の怖さを伝え、多くの方に興味をもっていただきました。その衝撃が大きかったようで、「帰ったらお父さんに伝えて、タバコをやめてもらう」や「家族で話し合う」との声が聞かれ、この活動が進むきっかけになる事を願うばかりでした。

そんな中、ある中学生はかつて職員から絵本を届けてもらったと声をかけて下さり、愛育の活動の歴史の深さや人と人のつながり、まさしく、絆を感じ、素晴らしい再会・出会いとなりました。また、懐かしい愛育班OBの皆様にもお会いすることができ、愛育を通して生まれたこの絆をいつまでも大事にしていきたいと感じました。

多くの方とつながりを持てた今回の絆まつり。今後

も地域の皆さんとのつながりを大切に、愛育班活動に励んでいきたいと思っています。

久那土愛育班

健康づくり事業

峡南管内身延町愛育会

今村 文子



健康づくり事業を三年ぶりに地域へ呼びかけ『心も楽しく健康に』のテーマで『トライアングル』の先生方に講師をお願いして行いました。参加者は十五名で、うれしいことに男性参加者もありました。スカーフ等を使いながら歌ったり楽しい時間を過ごすことができました。皆様から「心も体も解放され歌うことができました」

た。「こんなに楽しい思いをしたのは久しぶり。生きていてよかった。」「ミハーお

ばあさんが若返った気持ちです。』の感想が聞かれました。感極まるほどの素敵なひとときでした。

コロナ禍の後、地域の方々が集まる機会がありませんでしたが、この活動を通して愛育活動への期待を強く感じました。今後も愛育の灯を次年度へつなげていくことの大切さを強く思いました。

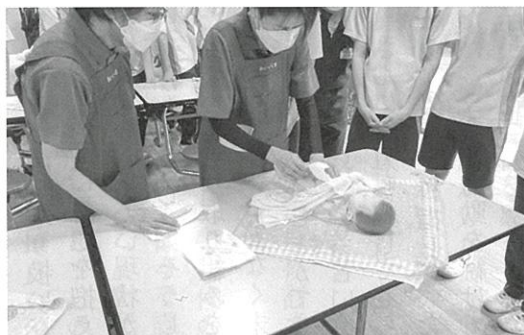
子ども達とのふれあい

峡南管内南部町愛育会

小泉まゆみ

この十月は子ども達と関わる事業があり、高齢化が進む南部町ですが、心がほのぼのとした体験でした。

一つは町の福祉健康まつりで虫歯のない三歳児の表彰です。どの場面を見ても可愛いらしい動作に参加された高齢者の皆様の笑顔も印象的でした。



もう一つは南部中学校の思春期体験学習です。

愛育会では赤ちゃん人形を使ってオムツ交換と抱っこのお世話体験を担当しました。人形とは言え久し振りの赤ちゃんの対応に愛育会の皆さんも真剣そのものでした。生徒の皆さんともふれあうことができ、楽しく貴重な時間でした。講義の中で愛がなくては生きていけないと学び、愛育会として子どもから高齢者まで愛情をもって接し、見守りや声かけ活動の大切さを再確認しました。



山中湖村の愛育会として
続けている事業のひとつに、
声かけカードがあります。お
年寄りから乳児までお宅を
訪問した時や、近所で会っ
た時に話したことなど、些
細なことでもカードに書き
留め、月一回の班員会議の際
に皆で共有しています。心配
な様子や気がかりなことは

つなげよう愛育の
こことちから

富士・東部管内

山中湖村愛育会

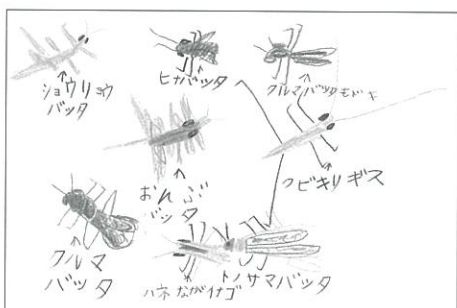
坂本あゆみ

話し合い、今後の対応や行政へのつなぎなど必要なことを探ります。もうひとつ変わらず続けているのが妊婦さんへのガーゼハンカチのプレゼントです。沐浴やお口拭きなどに使ってもらおうように、ハンカチを渡しながら体調を伺い、「いつでも何かあったら声かけてね。」と訪問します。もちろん、内容は声かけカードに記入します。

でも今、このガーゼハンカチの配布が変わっていいこうとしていきます。沐浴には肌への刺激になるためガーゼは使わず、泡で優しく洗う方法が行政や産院などでも勧められているようで、ガーゼハンカチの使い道が少なくなってきたようです。育児用品も便利なものが増え、ママたちの使うものも変わりました。つなげよう愛育のこことちから



甲府市 ほさかゆうとくん (7才)



韮崎市 ないとうれんくん (小1)

も、愛育活動として今のママたちに喜んで使ってもらえる、ガーゼのハンカチに代わる物を検討しています。

時代の流れを感じながら、その時々に合わせて、ちよつぱりお世話かいな愛育班員としての活動を変えず続けていくことが、大切だと思っています。

令和六年度
理事・リーダー
研修会に参加して

市川三郷町愛育連合会

高木 悦子

五月三十日に理事・リーダー研修会が開催され、多くのリーダーが県内各地から参加されました。

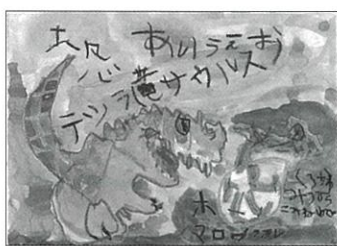
研修会の始めに、長年にわたり地域の愛育活動に取り組んでこられた県愛育連合会副会長の矢崎清香さんから、愛育活動への熱い思いをお聞きました。きっかけは嫁いで間もなくから家族の介護をすることになり大変な毎日を送っているとき、ご近所の方々が気にかけて声をかけてくださったそうです。皆さんが見ていてくれるのだと知り、ありがたかったとの思いが今につながっているとのことでした。

愛育活動は、まず、声掛け運動から先輩方からお聞きしていますが、まさにこうしたご近所同士の思いや



くしみるのだと思いました。

その後のグループワークでは、活発な意見交換が行われました。発表では、少子高齢化による人口減少や、また個人情報取り扱いなど、愛育活動に課題を抱える地域も少なくない現状が見受けられました。そうした中でも様々な取り組みを通じ、途絶えることなく未来へつなげていくことができよう、これからも、若い班員さんに魅力を感じてもらい、リーダーを目指していただけるような活動を続けて行きたいと思えます。



甲府市 ほさかゆうとくん (7才)

令和六年度山梨県愛育連合会の定期総会が五月三十日びゅあ総合二階大研修室で開催されました。潮

山梨県愛育連合会 定期総会

北新地区愛育会

中島 真史

定期総会

令和6年度

R6.5.30

副会長の開会の言葉に続き、立川会長挨拶・県子育て政策課篠原課長の挨拶を頂きました。

第一号議案から第三号議案までご承認を頂き、四号議案では、本年度改選となる会長を含め新役員すべてが承認となりました。進行

はスムーズに進み令和六年度事業計画・予算案ともに承認され、石原まゆみ新会長のもと、新たな船出となる定期総会となりました。

愛育班等組織育成者研修会に 参加して

山梨県子育て政策課

保健師

保坂

百

私は、今年度から初めて愛育会業務に携わっています。知識経験が浅い中で、様々な不安を抱いていましたが、少しでも愛育会のことを勉強したいという思いもあり、育成者研修会に臨みました。

午前は、源愛育会館の見学と講義が行われ、五名の県外受講者と八名の県内受講者と共に参加しました。初めて学ぶことが多く、特に、源村に出生した全ての子どもを「みんなの子」として大切に、母子が健やかに生活できるように尽力してきた矢崎きみよ氏の愛育活動には深く感銘を受けました。

会主催の模範愛育班実地研修と合同で開催しました。県外受講者も合わせて総勢三十七名が参加しました。前半は、県愛育連合会育成者として、県内の愛育組織の状況や県愛連の活動の様子を説明した後、中北保健所と中央市役所の育成者より各々の立場での支援について説明をしていただきました。県外受講者からは、「県や保健所がここまで関与していることに驚いた。」との感想をいただき、県↓保健所↓市町村の体制を築き愛育活動を支えていることは当県の特徴であり強みでもあると感じました。後半のグループワークでは「育成者としての課題と対応策について」をテーマに有意義な意見交換を行うことができました。愛育

活動の必要性を感じられない班員や役割が分からないと感じる班員がいる現状も挙げられ、それに対し、学習会の開催等の育成者として工夫できる対応策を検討することができました。

研修会を通して、現代の愛育活動において様々な課題が潜在していることを把握でき、育成者としてどのように支えていけば良いのかを考えるきっかけとなりました。今後、県愛育連合会の皆様と両輪となり、課題と向き合っていきたいと思っています。





第67回

愛育大会

R6.10.16

第一部

六十七回 山梨県愛育大会 (第一部) 報告

富士・東部保健所管内
愛育連合会

尾形 政代

第六十七回山梨県愛育大会が令和六年十月十六日、山梨県立文学館で開催されました。会場は華やかな雰囲気にも包まれていました。大久保山梨県副知事、山梨県愛育連合会石原まゆみ会

長より挨拶がありました。愛育班員の日頃の活動に対しての労いと感謝の言葉を頂きました。

その後、山梨県知事表彰が愛育班員七名、愛育班育成者一名、そして三団体に贈られました。

また、山梨県愛育連合会会長表彰を十名が受賞されました。

受賞者を代表して、大月市の小林勝子さんより「愛育会の班員として心を合わせて長い間いろいろな活動を

続けてまいりました。現在は

少子・高齢化で高齢者や若者、子ども達に人と人との繋がりの大切さ、助け合いの温かい心を広げる事にお役に立てればと思っています。

大月市も少子化が進んでいる中、子育て応援メッセージ集を作ったり、声かけメモの活動をしており、それらの活動を評価して頂いたことはこの上ない喜びであります。私達一同大きな励みとして、

なお二層愛育の輪を広げていくよう、様々な活動に取り組んでいきたいと思っています。」と謝辞が述べられました。私達後輩も見習い、長く愛育活動が続いていきたいと思います。

第二部 (記念講演)

子どもが未来に 向かうための力とは

小菅村女性の会・愛育会

亀井けい子

「身体的痛みと精神的痛みは同じ脳が知覚している」
「実は、皮膚は人の最大の臓器であり、直接外と繋がって

いる。」

相原先生のショッキングとも感じられる言葉から、子どもが健全に育っていくために考える学びの講演は始まりました。

核家族で育ち、見知らぬ人には細心の注意を払わなければならぬ現代の子どもにとって、集団で生きていく人間社会でどれだけ大変な思いをすることでしょう。テレビから、ネットから流れてくる暗く、先の見えない情報は、どれだけ子どもたちの健やかな育ちを妨げていることかと悲しくなってしまう。

近所のおじさん、おばさんである私たちが、いかに彼らに優しく柔らかに接していくことが大切であるか再認識させられる内容でした。

私自身も体験した「親」は、いつでも完璧な人間であるはずはありません。それどころか、子によって親としての自覚を持ち、育っていくのであり、失敗の連続なのです。

不安だらけの心細い子育てに周りの助けは必須、親に対しても優しく大きな心で接することを心がけなければいけないことや、「ゆりかごから墓場まで」二生継続するこの支えは、親子を支援していくという私たちにもまた必要だということです。



愛育活動を行うとき、私たちは多くの問題につきあいます。支援する側である愛育班員も、仲間同志お互いに辛さやつかれを受け止めあい、次の愛育活動へと元気に出かけていくと考えました。

家庭の養育力強化研修に

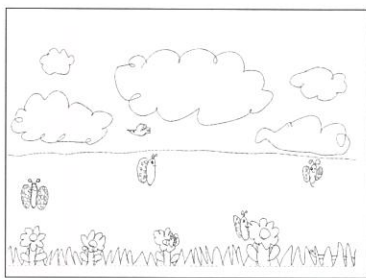
参加して

山梨県愛育連合会

副会長 前澤美代子

令和六年十二月十八日に山梨県愛育連合会主催の「家庭の養育力強化研修」がオンライン形式で開催されました。内容は、「周産期の心をケアする人の育成事業」として、5つのセッションで説明がありました。①人生の初めの千日間、②周産期のメンタルヘルス、③コミュニケーションスキル、④ブレコンセプションケア、⑤育児困難を感じている母親へ寄り添う地域における支援への期待でした。妊娠期間から二歳までの千日間は、将来の健康に影響する重要な時期であり、親から子への愛情を伝えると同時に、子から親にもボンディングという愛おしい気持ちを与えられ育まれること、親と子の相互作用の重要性が示されました。また、クッション言

葉、事情を説明、楽になるためにお願ひ上手になる、それぞれの頭文字の「くじら」としてコミュニケーションのポイントが紹介されました。続いて、将来の妊娠を考えながら女性やカップルが正しい知識を持つという考え、さらに育児困難を抱えている母親への寄り添い方について説明がありました。今の時代に合わせた私たち愛育班の「声かけ、見守り」のヒントがたくさんありました。



早川町 うえはらさでちゃん (5才)

模範愛育班の

指定を受けました

今年度、山梨県愛育連

合会が「恩賜財団模範愛育班の指定」を受けました。模範愛育班とは、愛育班活動を普及し、充実させるために模範的な愛育班を指定し、愛育班活動の見学実習の場とすることを目的としています。これまでの山梨県の愛育会活動が認められ、大変嬉しく思っております。今回の指定を励みに、今後も愛育会活動に尽力して参りたいと思います。



モザンビーク国

保健省との懇談会

山梨県愛育連合会

副会長 齋藤

光江

昨年に引き続き、今年も七月十二日に、JICA主催「母子栄養サービスプロジェクト」国別研修の受講のためアフリカのモザンビーク国保健省の六名が来県されました。県内の母子保健に関わる施設の見学の後、

防災新館にて山梨県愛育連合会の代表者と懇談しました。

まず、県子育て政策課の保坂保健師が愛育会の歴史や活動内容を説明され、続いて石原会長が体験談を話しました。



これらの話を聞いてモザンビークの方々が日本の少子化という現状に大きな疑問を抱いたということが印象的でした。モザンビークでは一人の女性が平均して五人の子どもを産むとのこと。そうした中で乳幼児の死亡率を下げるために力を注いでいる方々が今回の研修者の皆様です。「母子栄養サービス」という活動は愛育会の発足当時の活動と共通しています。この話し合いが有益でありますことを願います。

受賞に輝く人々

恩賜財団母子愛育会
●愛育班員の手記(佳作)

有事に活きる

平時から顔の見える関係



北杜市母子愛育会
大久保 香

私の生まれた家庭は父親が乱暴で不在がち。いわゆる機能不全家庭で母は貧困の中、二人で出産。自分の手で胎盤を引きずり出し当時六歳の姉が私を産湯で洗ってくれた。そんな過酷な環境下に産まれ育ちました。また、実兄が二歳になる直前に池に落ちて溺死。私も二歳の時、真冬の深夜に仕事にでている母を探して家を脱走。奇跡的に通りかかった近所の方に保護されました。この子は誰の子か。平時から顔の見える関係が作られることは子どもの命を守るためにとっても重要だ！という

「自立とはたくさんの方の助けを借りながら、自分自身で生きていくこと」をテーマに、子どもたちの対応をどうするか真剣に考えた方も少なくなかったのではないのでしょうか？

不測の事態に備え互いに助け合える助援力の構築。育ま

第56回
愛育班員全国大会
R6.4月

◆恩賜財団母子愛育会
愛育班活動功労者表彰

〈愛育班員〉

矢崎 清香 (韮崎市)

鷹野 利美 (中央市)

齋藤 光江 (富士川町)

山口 操子 (大月市)

〈団体〉

山中女性会愛育部

〈愛育班育成者〉 (山中湖村)

長島 雅江 (上野原市)

◆愛育班員の手記

佳作

大久保 香 (北杜市)

第67回山梨県愛育大会

◆山梨県知事表彰

〈愛育班員〉

天野 真弓 (笛吹市)

第七二号発行にあたり、ご多忙の中多くの方にご協力いただきました。ありがとうございます。

編集委員会を五回開催し、少しでも読みやすく手にとってもらえるよう紙面を刷新しました。

文字を大きくし写真を多く載せました。他の地域の活動を知る機会を決して多くはありませんから、少しでも次年度の活動の参考になれば幸いです。

編集後記

第67回山梨県愛育大会の折に、赤い羽根共同募金への協力をしていただき、誠にありがとうございました。皆様からの協力で、47,960円の募金が集まりました。

編集委員会

委員長 山本 幸子 中北
委員 中島 真史 甲府市
委員 天野 真弓 峡 東
委員 今村 文子 峡 南
委員 佐藤千代子 富士東部

この「愛育だより」は共同募金の配分により作成しました。